

# 日本表面科学会会誌「表面科学」投稿規程（2016年4月16日改訂）

会誌「表面科学」は日本表面科学会が発行する機関紙である。この会誌は表面科学の基礎および応用に関する研究論文および学会として必要な記事を掲載する。全ての投稿原稿は編集委員会の審査を受け掲載の可否が決定される。掲載された全ての論文および記事の著作権は日本表面科学会に帰属する。

## 1. 名称および出版形態

会誌は和文名「表面科学」、英文名「Journal of The Surface Science Society of Japan」とする。毎月発行の月刊誌であり、冊子版 (ISSN 0388-5321) とオンライン版 (ISSN 1881-4743) の二つの形態で出版する。オンライン版は科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) で公開される。

## 2. 投稿資格

会員は、論文あるいは記事を会誌に投稿することが出来る。会員以外の投稿は、原則編集委員会が依頼したものとする。

## 3. 投稿原稿

3.1 投稿原稿は和文または英文に限る。

3.2 投稿者は、「執筆の手引き」及び「テンプレート」に従って原稿を執筆しなければならない。

3.3 投稿者は、「投稿票」、「テンプレート原稿(word 形式推奨)」, 及び「図・表の電子ファイル」をウェブ投稿サイトから投稿する。投稿にあたっては「Web 投稿の手引き」を参照のこと。上記ファイル類は、表面科学ウェブサイトよりダウンロードできる。

表面科学ウェブサイト：[http://www.sssj.org/jsssj/kaishi\\_index.html](http://www.sssj.org/jsssj/kaishi_index.html)

投稿用ウェブサイト：<http://mc.manuscriptcentral.com/jsssj>

## 4. 論文および記事の種類と内容、長さについて

投稿原稿は**原著論文**、**速報**、**ノート**、**総合報告**、**研究紹介**、**ポピュラーサイエンス**、**実験ノウハウ**、**談話室**、**メッセージボード**、**先端追跡**、および**編集委員会**で企画した**記事**とし、投稿者が投稿時にその分類を指定する。また投稿原稿には、著者自らが投稿する**一般投稿**と、編集委員会より執筆を依頼する**依頼投稿**の区別がある。

4.1 論文および記事の内容は下記に従うものとする。

a. **原著論文**：表面科学の基礎および応用に関する独創的な研究を内容とする論文であり、すでに発表したもの、または投稿中の論文と同一内容または極めて類似した内容は含まない。

b. **速報**：原著論文に該当する論文のうち、重要な結果が得られており、早急に公表すべき内容の論文。速報提出に当たっては、“速報にすべき明確な理由”をカバーレターとして入力するか、もしくは添付する。

c. **ノート**：研究報告、装置の工夫、実験または計算の結果などを短くまとめた論文。

以上、論文、速報、ノートは、他の出版物に未掲載のもの、あるいは投稿中でないものに限る。

d. **総合報告**：表面科学の基礎および応用に関する総説や解説、実験法や分析法のテクニックやノウハウなどの記事とし、執筆者あるいはそのグループの研究にとどまらず関連する研究分野全体にわたった内容とする。

e. **研究紹介**：表面科学の基礎および応用に関して、執筆者あるいはそのグループが行った最近の研究内容を中心に紹介・解説する記事とする。原則として未発表データは含まないこととし、図表等においては引用文献を明確にすること。

f. **ポピュラーサイエンス**：表面科学との関わりにおいて興味ある、身近で生活に密着した現象を解説した内容とする。専門用語、数式等は極力避け、平易な表現で楽しい読み物となるようにする。

g. **実験ノウハウ**：表面科学に関連する実験法のノウハウを解説したもの。理論的な記述は原則として省くが、必要な場合にも最小限にとどめる。実験を行うにあたり成功のポイントを特

に強調して記述し、それが場合によっては理論的にうまく説明できなくても良い。失敗した経験も出来るだけ記述して、実験を行っているあるいは行おうとしている読者に役立つ内容にする。

h. **談話室**：読者のための自由な話題提供・情報交換のページ。最近の話題，研究室紹介，海外報告，学会や研究会・シンポジウムの紹介，コーヒープレイク（近頃思うこと）などについて，幅広い読者の興味をひく記事とする。

i. **メッセージボード**：学会から読者に向けた各種情報記事。

j. **先端追跡**：専門分野などで面白く新鮮な話題を紹介する記事。

k. **編集委員会で企画した記事**：ある期間のみ連載する企画記事。

#### 4.2 文献引用及び二重投稿に関する注意事項

a.すでに発表したものまたは投稿中の論文と同一内容または極めて類似した内容を，同一著者，もしくは該当論文中の少なくとも 1 名を含む著者により投稿した場合を二重投稿と見なす。但し，総合報告及び研究紹介は除く。

b. 他の雑誌に公表，または投稿中の同一の実験データ（図・表），または極めて類似の実験データ（図，表）を，引用すること無く当該論文中に記載した場合も二重投稿と見なす。ただし総合報告，あるいは研究紹介記事で，脚注や参考文献の形式に則り，適切に引用されている場合は，二重投稿にはあたらないものとする。

c. いずれの記事においても，引用文献等の出典を明らかにすること。事実を歪めて記述したり，虚偽のデータを公表したりしないこと。他者の図表を部分的にでも説明なしに改ざんすることは捏造に当たるので行わないこと。

#### 4.3 論文および記事の刷り上り（45 行 2 段組）の長さは，図表・参考文献を含めて次に示すとおりとする。ただし，1 ページは約 2300 文字である（片段の図表は 400 字に換算）。テンプレートで確認できる。

論文：	6 ページ以内	ポピュラーサイエンス：	3～4 ページ
速報：	2 ページ以内	実験ノウハウ：	2～3 ページ
ノート：	2 ページ以内	談話室：	1～2 ページ（内容に応じて）
総合報告：	8 ページ以内	先端追跡：	半ページ（800～900 文字程度）
研究紹介：	6 ページ以内	企画記事：	編集委員会で決定

### 5. 原稿の採否・著者校正・返却

#### 5.1 編集委員会は原稿の採否の決定をし，また原稿の内容について著者に修正を求めることができる。

修正を求められた原稿が二ヶ月を経過した後に再提出された場合，原則として返送された日を新たな受理日とする。また，六ヶ月を経過しても返送されない場合，その論文は撤回されたものとみなす。

#### 5.2 著者校正は一回とする。校正の際の加除筆は，印刷の誤り以外は原則として認めない。

### 6. 投稿料・別刷り・カラー印刷料

#### 6.1 一般投稿論文の著者は掲載論文の別刷りを 50 部購入するものとし，これをもって投稿料とする。

50 部を超える部数を請求することもでき，この場合は別刷り価格表を参照の上，製作部数を著者校正の時に注文する。

#### 6.2 依頼投稿論文の著者は，希望した場合に別刷りを購入することができる。

#### 6.3 冊子版では，カラーで図を印刷する場合は別途料金が発生し，著者がこれを負担する。オンライン版では，カラー図の掲載による著者負担はない。

### 7. 著作権

会誌「表面科学」に掲載された全ての論文および記事の著作権は日本表面科学会に帰属する。

### 8. 記事の転載

会誌「表面科学」に掲載された論文・記事の pdf ファイルを，個人または研究室が開設するウェブサ

イトに掲載すること，および配信することはできない。

## 9. 掲載論文・記事の引用

学会誌に掲載された論文あるいは記事を引用する場合には，会誌名称は下記の通りにすること。

和文誌の場合：**表面科学**

英文誌の場合：**J. Surf. Sci. Soc. Jpn.**

【例】 本郷太郎，表面科学 Vol. 2, p. 320 (2002).

Taro Hongo, J. Surf. Sci. Soc. Jpn., Vol. 2, p. 320 (2002) (in Japanese).

# 「表面科学」執筆の手引き (2016 年 2 月 6 日改訂)

## 1. 投稿原稿の作成

### 1.1 原稿の構成

原著論文・速報・ノート・総合報告・研究紹介・ポピュラーサイエンス・実験ノウハウ・談話室・メッセージボード・企画記事の原稿はテンプレートを用いて以下の順に表記すること。

- 1) 表題      2) 著者名      3) 所属機関名      4) 所在地
- 5) Title      6) Author(s)      7) Affiliation(s)      8) Address
- 9) 英文要旨 (和文要旨※)

原稿本文の内容の要旨を英文で書く。原著論文・総合報告・研究紹介・ポピュラーサイエンス・企画記事は **150 語程度**、速報とノートは **70 語程度**とする。ギリシア文字などの特殊文字の使用は出来る限り避けること。談話室・実験ノウハウへの投稿原稿では英文要旨(および和文要旨)は不要である。

※和文要旨は「英文要旨の和訳」とし、投稿票に記載する。

### 10) キーワード

原著論文・速報・ノート・総合報告・研究紹介・ポピュラーサイエンスでは、英文キーワードを 5 つ以内で取り上げ、KEYWORDS: に続けて書くこと。原則小文字とする。

### 11) 原稿本文

和文の場合には常用漢字を用い、新仮名遣いで書く。英文の場合は、米国綴りを推奨する。

### 1.2 原稿の体裁

テンプレートを用い、原稿の長さや図の質、文字の見やすさなどを確認する。用紙の下中央にページ番号を打つこと。

### 1.3 電子ファイルの作成 (Web 投稿の手引きを参照のこと)

- a. テンプレートを用い図を貼り付ける。図は鮮明であること(300 dpi 程度以上)。原稿送付は、Word 形式(.doc) (推奨) または PDF 形式(.pdf)とする。また、投稿票、カバーレター (速報のみ) を用意する。
- b. 図・表の電子ファイルは、300 dpi 程度以上で独立したファイルとして作成する。電子ファイルの拡張子は、.pdf .eps. jpeg .png .gif .jpg .tif .tiff 形式とする。査読プロセスにおいては、図表を Powerpoint ファイル(.ppt) にまとめたものでも構わないが、採択後は独立したファイルを用意する。
- c. アップロードできるファイルの容量は総計 20MB とする。

## 2. 原稿本文作成時の諸注意

### 2.1 句読点

和文の場合には、句点は「。」, 読点は「,」とする。

### 2.2 数字

本文中で使用する数字は、原則としてアラビア数字とする。位取りのコンマは付けない。

[例] 1,500 K → 1500 K

漢字やひらがなと結合し、名称として現れる数字は漢数字とする。

[例] 一つ, 二重線, 三体問題

### 2.3 立体とイタリックの使い分け指針 (ここでのルールはあくまでも指針であるため、論文内で統一されていれば必ずしも従わなくても良い。)

- a. 変数を示す記号: 原則としてイタリック体。

[例] 座標軸  $x$ ,  $y$ ,  $z$

[例] 化学式, 化学反応式の変数  $\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$

[例] フェルミエネルギー  $E_F$  (F は Fermi を表し, 物理量ではないので立体)

[例]  $i$  番目の原子位置  $\mathbf{R}_i$  ( $i$  は変数なのでイタリック体, ベクトル  $\mathbf{R}$  は太字に)

- b. ラテン語：全てイタリック体とする。

[例] *ab initio a priori ca. e.g. et al. in vivo i.e. in situ vs. etc.*

- c. 演算記号・単位：演算記号や単位は立体とする。単位は原則として国際単位系（基本単位、補助単位、固有の名称を持つ組立単位を含む）を使用すること。

[例]  $\sin$   $\cos$   $\exp$   $d$   $\Delta$

[例] m（長さ） s（時間：秒） min（時間：分） h（時間：時） mol（物質質量）

kg（質量） K（温度） J（熱量） Pa（圧力） V（電圧）  $\Omega$ （電気抵抗）

- d. 元素記号・電子軌道：立体とする。

[例] Cu, Zn, CH<sub>3</sub>OH

[例] 3d 軌道, O 2p 準位

## 2.4 省略語

省略語は、最初に出てくるところで原綴りを書く。

[例] 密度汎関数理論（density functional theory, DFT）

## 2.5 外国人名・地名

外国人名や地名は原綴りとする（アルファベット以外の文字の場合は英語綴りに直したものをを用いること）。ただし、人名が学術語となっている場合、日本でよく知られている地名の場合はカタカナを使うことが出来る。

## 2.6 脚注

本文中に\*, \*\*などの記号で示し、それが現れるページの下部に本文とは別の脚注のためのスペースを設け、その欄に脚注を書くこと。

# 3. 図表

- 3.1 本文中、図は Fig. 1, Fig. 2, Fig. 3(a), Fig. 3(b), …, 表は Table 1, Table 2, …で指し示すこと。

- 3.2 図や表のキャプションは英文とする。

- 3.3 図や表の中では英文を用いること（数量記号として用いるギリシア文字は使用できる）。

- 3.4 カラー図について。

- a. 著者は、図を白黒もしくはカラーのどちらで出版するかを、投稿票で指定すること。

- b. オンライン版ではカラー図を推奨する。ただし、同じ図を冊子版で白黒図に指定することが可能である。

- c. 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合、著者はカラー図と白黒図の双方を作成しなければならない。

- 3.5 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合の注意点

- a. 図キャプションでは、次のように color online の文言を付けること。

[例] Fig. 1 (color online).

- b. 本文中では、図に用いた色、または濃淡を指し示す解説をしてはならない。

[してはならない例 1] 赤色で示された領域は…である。

[してはならない例 2] 薄い太線は、…の変化を示したものである。

(注) 同一図が冊子版とオンライン版でカラーの場合あるいは白黒の場合には、これに当てはまらない。

# 4. 文献

- 4.1 本文中では引用文献を <sup>1)</sup> のように、あるいは <sup>2, 3)</sup> や <sup>4-7)</sup> のように肩書きにした番号で指定すること。

- 4.2 一つの引用番号に対しては一つの論文のみを引用すること。複数の引用論文を一つの引用番号に割り当ててはいけない。

- 4.3 本文の末尾に、引用した文献を対応する番号と共に一覧にして記すこと。

- 4.4 本文の補足説明は脚注（2.6 節参照）を利用し、引用文献欄に補足説明を付記するのは避けること。

#### 4.5 推奨されない書き方 (英和文混合は避ける)

推奨されない書き方 → 1) 例えば, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002)を見よ。

推奨される書き方 → 1) See, for example, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002).

#### 4.6 引用文献の例

書き方は、ジャーナルの場合には「著者名：雑誌名 巻数, 開始ページ (発行年)」, 図書の場合は「著者名：“書名” [エディター名] (出版社, [出版社所在地,] 出版年) [章あるいは開始ページ]」 ([ ]内は省略可)を基本とする。

総合報告, 研究紹介, 原著論文, 実験ノウハウの引用文献は著者全員の名を明記すること。

その他, 学位論文, 予稿集, 特許に関しては下記を参照のこと。

和文ジャーナル・和文図書・英文図書の名称は省略できない。英文ジャーナルは省略が可能である。英文ジャーナルの省略規則はアメリカ物理学会 (APS), もしくはアメリカ化学会 (ACS) のホームページを参照のこと。省略規則があいまいな場合には, 省略せず全て書くこと。

<http://d22izw7byeupn1.cloudfront.net/files/styleguide-pr.pdf>

<http://www.cas.org/content/references/corejournals>

##### a. 和文ジャーナル

- 1) 吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整：表面科学 **23**, 25 (2002).

##### b. 英文ジャーナル

- 2) T. Hirahara, I. Matsuda and S. Hasegawa: e-J. Surf. Sci. Nanotech. **2**, 141 (2004).
- 3) K.L. Brogan, J.H. Shin and M.H. Schoenfish: Langmuir **20**, 9729 (2004).
- 4) Y. Morikawa: Phys. Rev. B **63**, 033405 (2001).

##### c. 和文図書

- 5) 井口洋夫：“シンクロトロン軌道放射光” 市村禎二郎, 旗野嘉彦, 井口洋夫編 (学会出版センター, 1991).
- 6) 藤本大三郎編：“細胞外マトリックスのバイオサイエンスとバイオテクノロジー” (アイシーピー) p. 111.
- 7) 井口洋夫：“元素と周期律表” (裳華房, 1980).

##### d. 英文図書

- 8) S. Morita, R. Wiesendanger and E. Meyer (Eds.)：“Noncontact Atomic Force Microscopy” (Springer, Berlin, Heidelberg, 2002).
- 9) H. Seki：“Electrochemical Surface Science”, ed. by M.P. Soriaga (The American Chemical Society, Washington, D.C., 1988) p. 322.
- 10) “Surface Analysis by Auger and X-ray Photoelectron Spectroscopy”, ed. by D. Briggs and J.T. Grant (IM Publications, 2003).

##### e. 学位論文

- 11) 近藤剛弘：筑波大学大学院工学研究科博士論文 (2003).
- 12) D.A. Mantell: Ph.D. Thesis, Yale University (1983).

##### f. 講演大会予稿集 (頁がない時または頁の代わりに発表番号を記載)

- 13) 石井達也, 加藤英樹, 工藤昭彦：日本化学会第78春季大会講演予稿集I (2000) p. 322.
- 14) 相馬清吾：日本表面科学会第31回表面科学学術講演会要旨集 (2011) 16Bp-01.
- 15) S. Aramaki and T. Murayama: Proc. of IS & T's 11th Int. Congress on Advances in Non-Impact Printing Technologies (1995) p. 26.

##### g. 特許

- 16) 尾形俊昭：特開昭 59-75205 (1984).
- 17) J.S. Beck: U.S. Patent No. 5,057,296 (1991).

#### 4.7 [オプション] DOI (Digital Object Identifier)の併記

DOI が付与されている引用文献に DOI を併記すると, リンクが付く可能性が高くなる。DOI を併記する場合, 以下の例を参考にすること。※ DOI は必ずしも併記する必要はありません。

吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整：表面科学 **23**, 25 (2002), doi:10.138/jssj/23/285.

## **5. 英文のチェック**

**5.1** アブストラクトや図表のキャプションは、ウェブページへの掲載や他の雑誌に引用されることもあります。これら英文は、著者の責任において、ネイティブによるチェックなどを行って下さい。

## **6. 転載許可**

**6.1** 過去に掲載（発表、出版）された論文の全体、または図や表の一部を投稿論文で使用する際は著作権を有する学会等への転載許可の申請が必要である。申請は著者の責任で行って下さい。